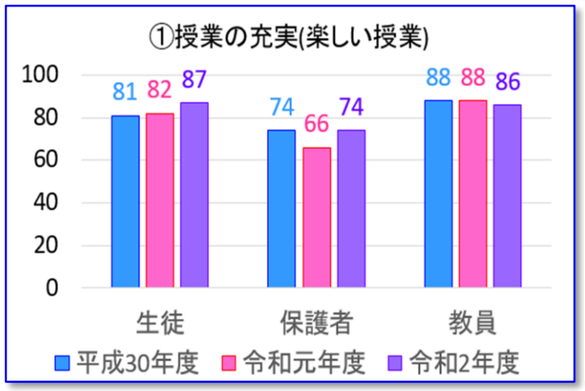
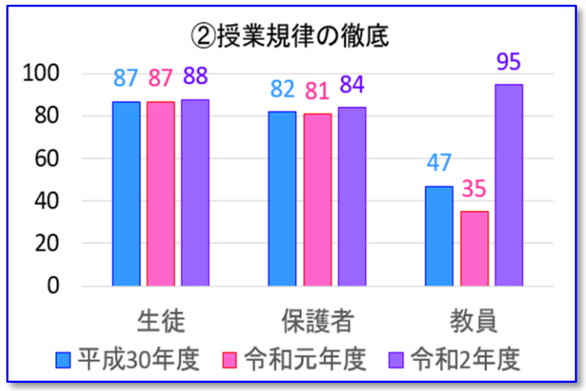
令和２年度 第１回 学校関係者アンケートの結果について(表面)

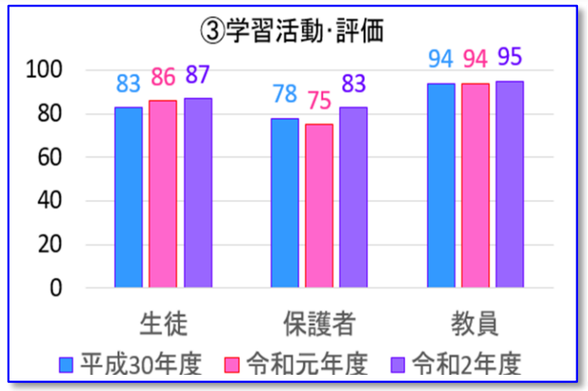
令和３年１月14日
東大和市立第五中学校



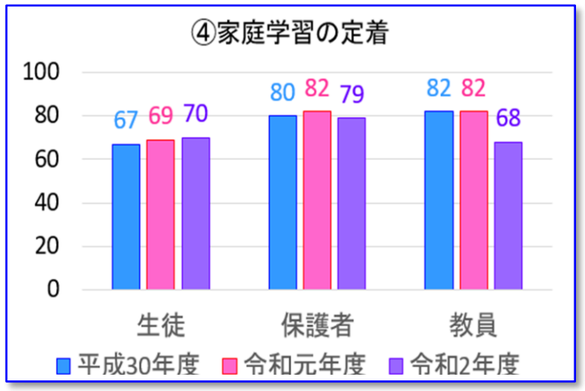
【分析】
生徒の満足度が向上している。今年度から各教科でＰＣの画面をプロジェクターで投影する指導方法が増え、視覚的に理解しやすくなったことが考えられる。



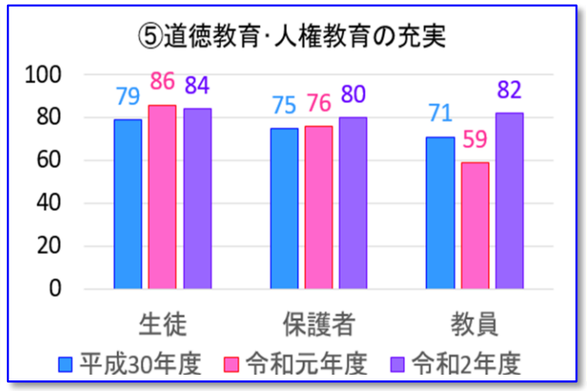
【分析】
教員は授業規律がこの３年間で最も保たれていると認識している。現状に満足することなく、規律を維持することが今後の課題である。



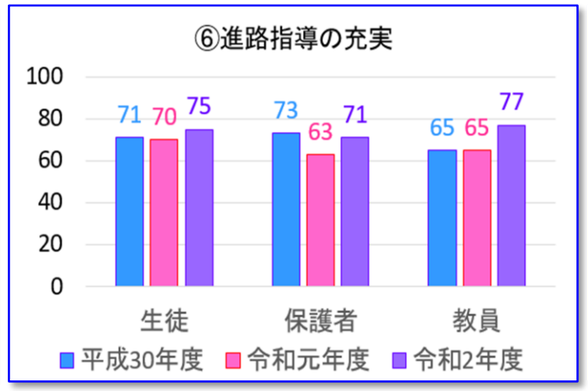
【分析】
生徒や保護者、教員の割合が向上している。単元テストの他に提出物等の評価材の提出を厳格にしていることから評価の精度が向上していると考えられる。



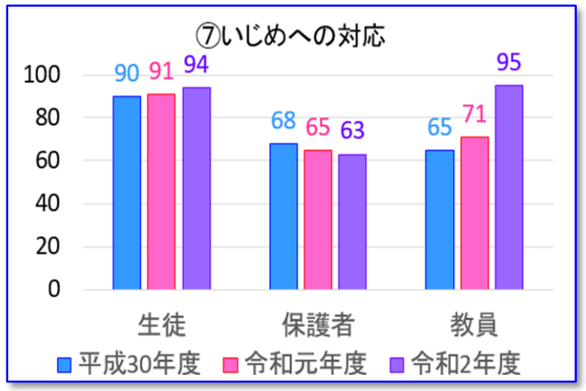
【分析】
家庭学習記録シートの活用が定着している中、教員は家庭学習の出し方や学習の定着に課題があることを認識している。



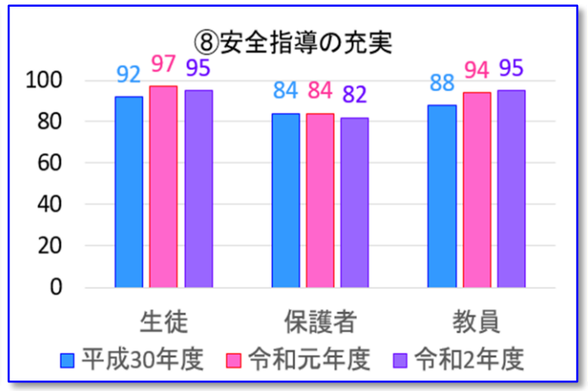
【分析】
公共心や思いやりなどの道徳的価値については、日々の教育活動の中で概ねはぐくまれているものと考える。



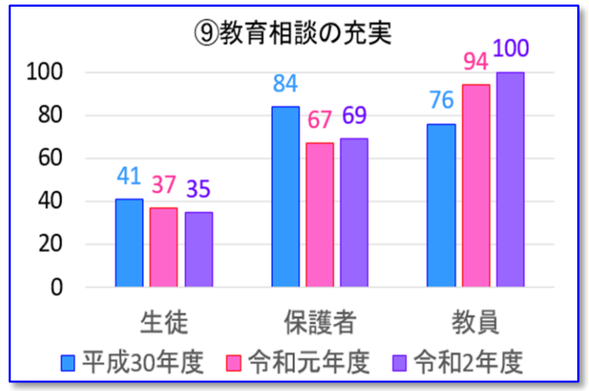
【分析】
新型コロナウィルス感染症の対応の中、学校と家庭が入学者選抜等における例外的な取り組み情報を丁寧に共有できている。



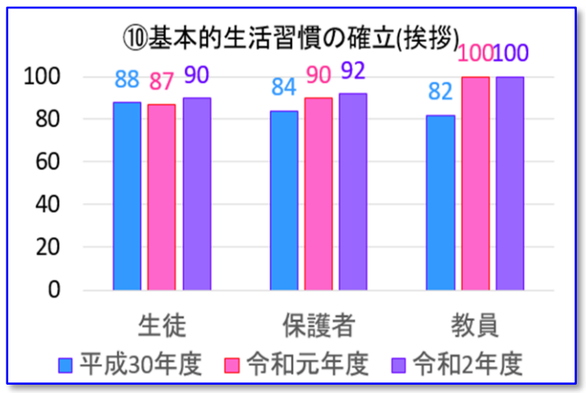
【分析】
ＳＮＳ内での見えにくいいじめ事案について、学校の家庭への啓発が浸透していないことが考えられる。啓発手段の工夫が必要である。



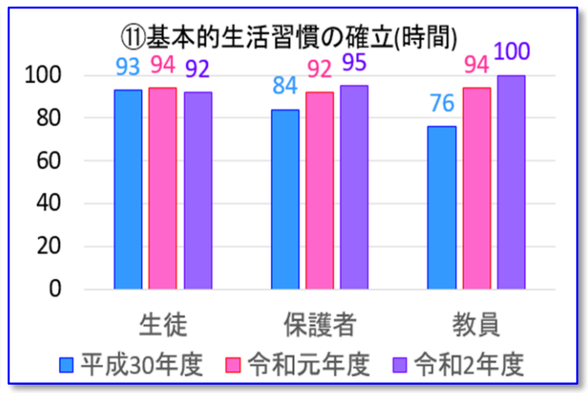
【分析】
月に一度の定例化した避難訓練により、生徒への意識啓発が深まっている一方、家庭への啓発手段の工夫が必要である。



【分析】
生徒の教員やスクール･カウンセラーへの相談が経年で低下している中、教員の意識が生徒と乖離している。生徒理解が喫緊の課題である。



【分析】
教員と家庭による挨拶の基本的生活習慣の大切さが共有され、生徒の意識の向上につながっていると考えられる。



【分析】
教員の授業開始の３分前での移動が生徒への時間に関わる基本的生活習慣の意識啓発に影響していることが考えられる。

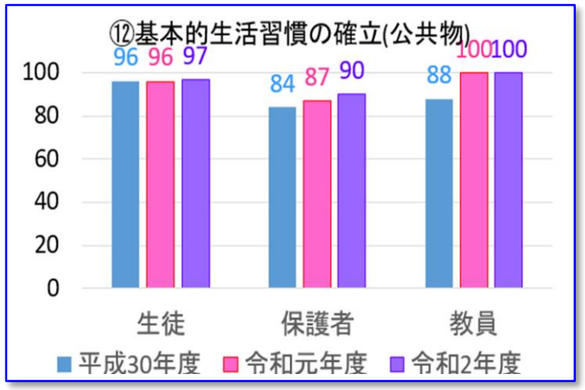
【グラフの見方】

●単位
百分率(%)

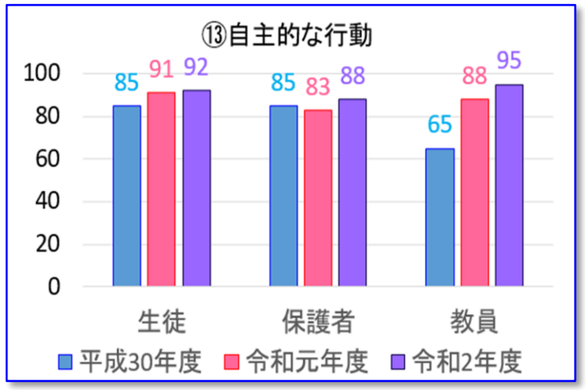
●グラフ上部の数値ラベル
肯定的な回答(Ａ層とＢ層)の合計値
Ａ層：「とてもそう思う」
Ｂ層：「どちらかといえばそう思う」
Ｃ層：「どちらかといえばそう思わない」
Ｄ層：「そう思わない」

令和２年度 第１回 学校関係者アンケートの結果について(裏面)

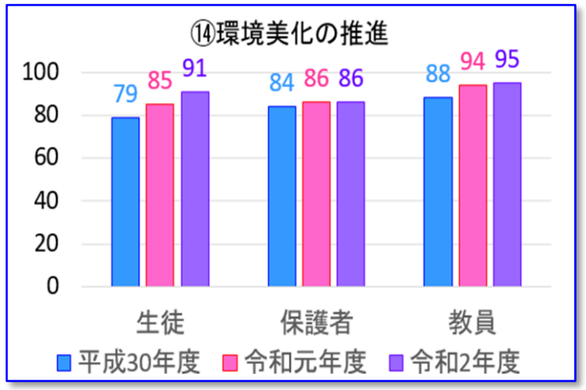
令和３年１月14日
東大和市立第五中学校



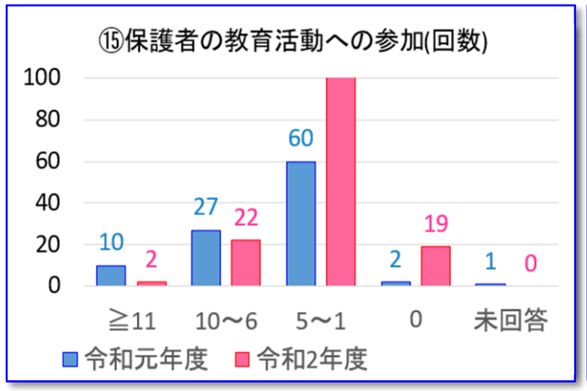
【分析】
掲示物や校舎施設への破損行為へは厳しく指導していることから、公共物等に対する生徒への理解は深まっていると考えられる。



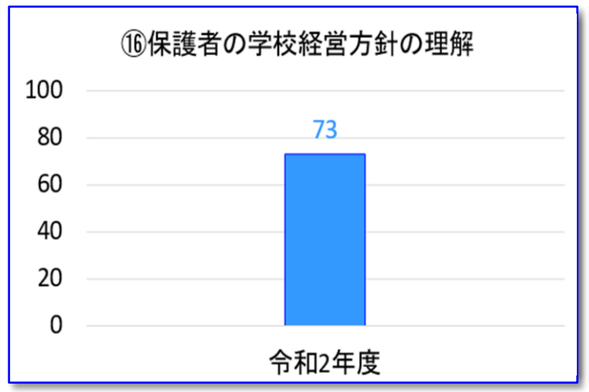
【分析】
中学生としてのあるべき姿や行動規範が生徒に身に付いていると考えられる。



【分析】
落ち葉掃きボランティアやピカピカウィーク、日々の清掃活動を通して、環境美化への意識が高まっていると考えられる。



【分析】
「5～1」の数値は 170 で突出しており、表記されていないが、新型コロナウィルス感染症の対策の厳しい中で、来校していただけたととらえる。



【分析】
毎回の学校だよりに学校経営方針を添付して年間を通じて家庭へ啓発したことにより、理解に繋がったと考える。